

アンケート調査等の実施概要

立地適正化計画及び地域公共交通計画の策定に向け、人々の移動実態やニーズを把握するため、「市民向けアンケート調査」「コミュニティバス（ちょこバス）利用実態調査・OD 調査」「路線バス利用者実態調査」を実施する。

1. 市民向けアンケート調査

（１）目的

- ① 市民が「どこで（場所）」「何を（目的）」していて、そこに「どのように移動（手段）」しているのかを尋ねることで、現状の生活実態を空間的に把握
- ② 公共交通での移動とそれ以外での移動を重ねることで、現在のコミュニティバス網と移動ニーズのギャップの有無を確認
- ③ コミュニティバス、シェアサイクルの利用実態と利用意向を把握することで、今後の在り方や事業展開の可能性を検討
- ④ 立地適正化計画において定める誘導施設に関するニーズを把握するとともに、居住する地域における災害に関する不安の有無とその内容などを確認

（２）調査方法

- ① 調査対象：3,000 人（16 歳以上の市民を無作為抽出）
- ② 配布方法：郵送
- ③ 回答方法：郵送及び WEB 回答

（３）設問案

調査項目	主 旨
①回答者の属性	
ア. お住まいの地域、性別、年代、職業、家族構成、居住年数、自動車・自転車の保有状況、運転免許保有状況、移動時の状況	・ 設問②～⑥のクロス分析に用いるため、回答者の属性を把握
②日常の外出行動	
ア. 通勤・通学、病院・福祉施設、公共施設、買い物（日常・買回り品）の目的毎の行先、外出頻度、移動手段、移動時間帯	・ パーソントリップ調査や人流データでは捕捉できない詳細な目的毎に移動実態を把握 ・ 回答結果から徒歩圏域を把握
イ. 不足している生活サービス	・ 誘導施設に関するニーズの把握
③公共交通の利用実態・利用意向	
ア. 移動時に公共交通を利用する頻度	・ 将来的に公共交通の利用率等を比較する際の現況として把握
イ. 最寄りのバス停名（もしくは駅名）、徒歩での所要時間、距離、歩いた時の負担感	・ 実際に歩いてバス停（もしくは駅）へ向かう際の徒歩圏域の実態を把握
ウ. シェアサイクルの利用実態等	・ 導入検討の参考資料 ・ 自家用車利用からの転換可能性の検討

④公共交通の今後の在り方	
ア. 財政負担額を踏まえた、ちょこバスの便数、ルート等についての意向	・ ちょこバスの今後の在り方の検討
イ. 財政負担額を踏まえた、都営バスの便数、ルート等についての意向	・ 都営バスの今後の在り方の検討
ウ. 地域検討組織への参加意向	・ バス停が遠い地域においてコミュニティタクシー等の交通手段を導入しようとする場合の地域検討組織への参加意向の把握
エ. モノレール延伸後の行動の変化の見通し	・ 武蔵村山方面への移動意向や自動車やバスからの転換の影響予測
⑤防災に関する意識	
ア. 災害に対する不安の有無とその内容	・ 居住者の災害に対する認識の把握
イ. 地域の防災活動への参加経験や関心の有無	・ 地域の防災活動における市の支援の在り方の検討
⑥現在と将来の住まいに関する意向	
ア. 居住する地域への評価と愛着	・ 居住する地域の暮らしやすさに関する評価や地域への愛着、将来的な居住意向の把握
イ. 20 年後の居住意向（引っ越す場合は引っ越し希望先も）	
ウ. 20 年後の住宅所有に対する意向	
エ. 市のまちづくり・公共交通の今後のあり方に関する意見（自由回答）	・ 定量的に調査できない意見の把握

（４）実施時期

7月30日（水）～8月15日（金）

2. コミュニティバス（ちょこバス）利用実態調査

（１）目的

- ① 統計データでは把握できないちょこバスの利用実態や利用意向を把握
- ② ちょこバスのルート再編や持続可能な運行形態の検討のため、基礎資料を収集

（２）調査方法

- ① 調査対象：ちょこバスの循環・往復ルートの全利用者
- ② 実施方法：調査員がちょこバスに乗車し、次の「ア」と「イ」の調査を同時に実施

ア. ちょこバス利用者アンケート調査

車内で調査票を直接配布、郵送及び WEB で回答

イ. ちょこバス利用者 OD 調査（※人々の移動の起点と終点を把握するための交通量調査）

乗車バス停、降車バス停、移動の目的等を調査するため、車内でビンゴカード状の調査票を直接配布、バス車内で回答

（３）設問案

調査項目	主 旨
①回答者の属性	
ア. お住まいの地域、性別、年代、職業、家族構成、居住年数、自動車・自転車の保有状況、運転免許保有状況、移動時の状況	・クロス分析に用いるため、回答者の属性を把握
②ちょこバス等の利用実態・利用意向	
ア. 乗車した系統・乗車バス停、降車バス停、目的地・移動の目的・乗り継ぎの有無	・「公共交通での移動実態」を地域毎に整理
イ. ちょこバス運行において重視する点（運行日数、運行本数、運行時間帯、ルート、料金など）	・社会情勢（利用者の減少、運転手不足など）が変化する中であっても、公共交通を維持していくため、市民が考える優先順位を把握
ウ. 最寄りのバス停名、徒歩での所要時間、歩いた時の負担感	・実際に歩いてバス停（もしくは駅）へ向かう際の徒歩圏域の実態を把握
エ. シェアサイクルの利用実態と利用意向	・導入検討の参考資料
③公共交通の今後の在り方	
ア. モノレール延伸後の行動の変化の見通し	・武蔵村山方面への移動意向や自動車やバスからの転換の影響予測
イ. 市の公共交通に対する要望（自由回答）	・定量的に把握できないニーズの把握

（４）実施時期

9月1日以降に実施予定 ※中高生が通学で利用しない夏休み期間明けに実施

3. 路線バス利用者実態調査

(1) 目的

路線バスネットワークに対する現況の課題や将来の移動ニーズを把握

(2) 調査方法

① 調査対象：主要なネットワークを構成している以下の路線バス

系 統	配布箇所
ア. 都営バス	
● 梅 70（花小金井駅～青梅車庫）	東大和市駅 東大和病院
イ. 西武バス	
● 立 35、立 35-1、東大和 35、立 36（立川駅北口～奈良橋～東村山駅西口） ● 立 37、立 37-1、東大和 37（立川駅北口～奈良橋～イオンモール） ● 立 34、立 34-1、久 84（立川駅北口～東京街道～久米川駅）	東大和市駅 東大和病院
ウ. 立川バス	
● 玉 10、立 23（立川駅～村山団地）	玉川上水駅

② 実施方法：調査員が調査票を直接配布、郵送及び WEB で回答

(3) 設問案

調査項目	主 旨
①回答者の属性	
ア. お住まいの地域、性別、年代、職業、家族構成、居住年数、自動車・自転車の保有状況、運転免許保有状況、移動時の状況	・クロス分析に用いるため、回答者の属性を把握
②ちよこバス等の利用実態・利用意向	
ア. 乗車した系統・乗車バス停、降車バス停、目的地・移動の目的・乗り継ぎの有無	・「公共交通での移動実態」を地域毎に整理
イ. 路線バスの運行において重視する点（運行日数、運行本数、運行時間帯、ルート、料金など）	・社会情勢（利用者の減少、運転手不足など）が変化する中でも、公共交通を維持するため、市民が考える優先順位を把握
ウ. 最寄りのバス停名、徒歩での所要時間、歩いた時の負担感	・実際に歩いてバス停（もしくは駅）へ向かう際の徒歩圏域の実態を把握
エ. シェアサイクルの利用実態と利用意向	・導入検討の参考資料
③公共交通の今後の在り方	
ア. モノレール延伸後の行動の変化の見通し	・武蔵村山方面への移動意向や自動車やバスからの転換の影響予測
イ. 市の公共交通に対する要望（自由回答）	・定量的に把握できないニーズの把握

(4) 実施時期

9月1日以降に実施予定 ※中高生が通学で利用しない夏休み期間明けに実施